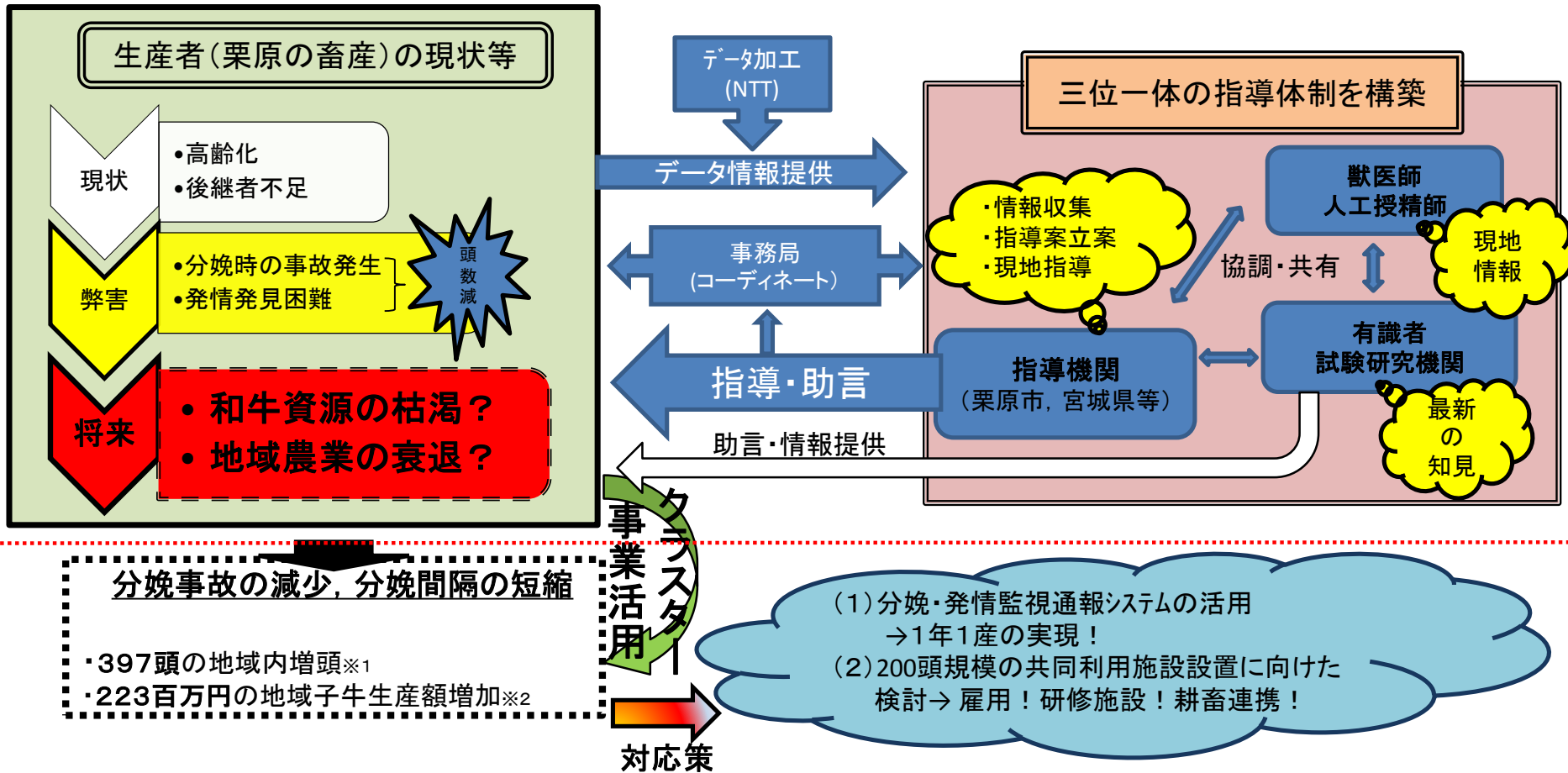


JA栗っこ畜産クラスター協議会を核とした地域と畜産の振興

実証内容

- 1 生産性の向上(分娩・発情監視通報システムの活用)
- 2 地域の和牛生産基盤の維持・拡大(共同利用施設の設置)



※1 397頭増の根拠(A+B)

- 地域内繁殖牛頭数 3,300頭
- 分娩間隔 現況 13.8ヶ月 → 事業効果 12.8ヶ月 (-1M)
- 子牛生産頭数 現況 2,869頭 → 事業効果 3,093頭 (224頭増) …A
- 200頭規模共同利用施設による子牛生産増
- 子牛生産 200頭 × 12/13.8 = 173頭 …B

※2 223百万円増の根拠

- 子牛397頭(※1) × 平均販売金額56.4万円(※3)
- = 223百万円

※3 平成26年度のJA栗っこ平均子牛価格